

老健施設のリスクマネジメント

冬の感染症対策

2019.10 Vol.1

発行者：MS&ADインターリスク総研

～ノロウイルスによる感染性胃腸炎から身を守る～

■ 集団感染事例 ■

東京都は、東大和市の高齢者施設でノロウイルスによる集団食中毒が発生し、入居者16人が下痢や嘔吐（おうと）などの症状を訴え、うち男性1人が死亡したと発表した。東京都によると、発症したのは76～95歳の男女。15日午前5時半ごろ、84歳の男性が心肺停止状態で見つかり、まもなく死亡が確認された。吐物を気管に詰まらせた窒息死だった。

発症していない調理担当の従業員からノロウイルスが検出され、多摩立川保健所は当該施設が調理し提供した給食が原因の食中毒と断定した。調理を自粛していた4日間に加え、3日間給食を出さないよう命じた。

(出典：2015/2/20日本経済新聞・東京都HP掲載の事例をインターリスク総研にて一部修正)

■ 特徴 ■

ノロウイルスは、秋口から春先に発症者が多くなる冬型の胃腸炎・食中毒の原因ウイルスです。感染力が強く、少量のウイルスが体に入ると、小腸の中で増殖すると考えられています。そのため、吐物や便に大量のウイルスが存在し、感染源となります。予防薬（ワクチン）はありません。

■ 症状 ■

感染後24時間～48時間で、下痢・吐き気・嘔吐・腹痛・発熱などの症状が出ます。3日程度で自覚症状は落ち着きますが、ウイルスは通常1週間、長くて1か月程度便中に排出されます。感染しても発症しない（症状が出ない）人もいますが、便にはウイルスが排出されています。

高齢者は、嘔吐・下痢に伴う脱水症状や吐物の誤嚥による誤嚥性肺炎、窒息のリスクが高く、特に注意が必要です。

■ 施設で多い感染経路 ■

- ① 利用者のノロウイルスが大量に含まれる吐物や便から人の手を介して起こる二次感染
- ② 人同士の接触する機会が多いところで人から人へ飛沫感染などから起こる直接感染
- ③ 食品取扱者が感染しており、その人を介して汚染した食品を食べることにより起こる経口感染

■ 事例のポイント ■

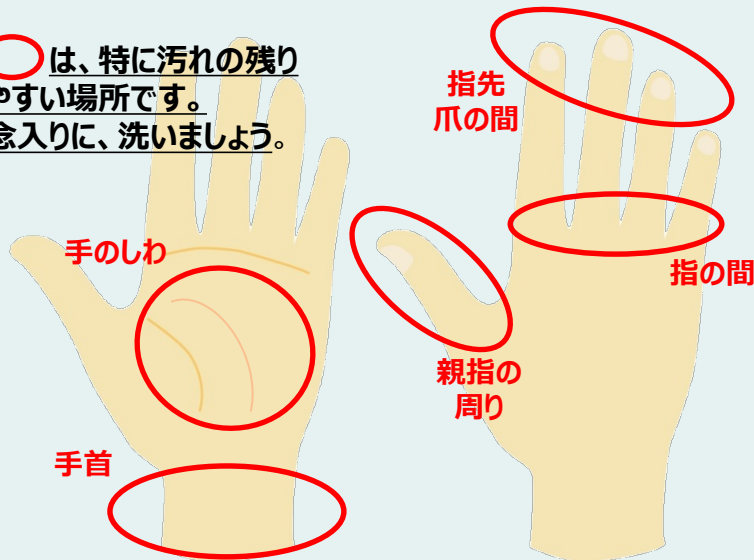
事例では、調理職員からウイルスが検出されていることから、感染経路は③と考えられます。しかし、感染していても自覚症状がない場合があり、誰もが気づかぬうちに感染源になりえます。自覚症状の有無に関わらず、平常時からの衛生管理が必要です。ノロウイルスは、アルコール消毒の有効性が確立していないため、正しい手洗いの遵守が重要です。また、感染拡大防止のための対策も事前に準備しておきましょう。

■ 平常時の対策 ■

1. 流水・石鹼による手洗いで予防しましょう。

ノロウイルスによる感染症は、多くの場合、ウイルスに触れた人の手を介して感染が拡大します。利用者・職員ともに正しい手洗いを習慣付けることが、感染予防の基本です。

○は、特に汚れの残りやすい場所です。
念入りに、洗いましょう。



手洗いのポイント

- ① 流水で汚れを落とし、石鹼を使って十分にこすり洗いをしましょう。（石鹼を使うことにより、ウイルスが、手からはがれやすくなります。）
- ② 流水で、30秒間洗い流しましょう。
- ③ 手をふくタオルの共有はやめましょう。（タオルを介して感染します。）
- ④ 水道の蛇口は、洗う前に触れているので、洗い流すか、ペーパータオルなどを使い閉めましょう。（再び手を汚さないようにします。）

2. 手すり、ドアノブ、水道の蛇口など手を触れる場所や身の周りの物は定期的に消毒しましょう。

通常行っている清掃に加え、多数の人が触れる場所や物は、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒しましょう。

3. 施設内で統一した手順を作成し、共有しましょう。

①次亜塩素酸ナトリウム溶液の作り方や使い方、②便や吐物の処理、③衣類の消毒や洗濯、④リネン類の消毒や洗濯、⑤感染者の入浴、⑥発生時の連絡など、ノロウイルス感染症発生時の詳細なルールを明記した手順書を作成し、発生時に適切な対応ができるよう施設内で共有しましょう。

■ 嘔吐、下痢症状出現時の対応 ■

1. 使い捨てエプロン、マスク、手袋、ゴーグルを着用し、次亜塩素酸ナトリウムにて処理します。また、手袋を外した後は、直ちに手洗いを行いましょう。

吐物や便の処理は、処理をする人自身へ感染と、施設内への感染拡大を防ぐため、適切な方法で、迅速、確実に行うことが必要です。その際、スタンダードプリコーション（標準予防策）を遵守し、吐物や便を適切に処理しましょう。使用する物品を1セットにし、すぐに対処できるよう準備することも感染の拡大防止に役立ちます。

2. 処理後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意し、十分に換気を行いましょう。

ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染します。10日以上前に汚染されたカーペットが原因で感染が起きた事例もあります。適切な処理後、十分な換気を行いましょう。

（出典：東京都福祉保健局「防ごう！ノロウイルス食中毒」・厚生労働省「ノロウイルスQ & A」より）